

《技術報告》

^{123}I -IBF のヒトにおける代謝に関する検討

松本 博樹* 田中 昭広* 鈴木 徳昭* 近藤 進*
東 眞* 米倉 義晴**

* 日本メジフィジックス株式会社創薬研究所

** 福井医科大学高エネルギー医学研究センター

要旨 ^{123}I -IBF のヒトにおける代謝について、*in vivo* および *in vitro* で検討を行った。 ^{123}I -IBF はヒトに静脈内投与された後速やかに代謝を受けた。血漿中および尿中には代謝物として ^{123}I -nor-ox-IBF, ^{123}I -ox-IBF, ^{123}I -nor-IBF, その他多くの未同定代謝物が出現した。また ^{123}I -IBF 投与後のヒト体内における脱ヨード化は軽微であると考えられた。さらにヒト P450 再発現系を用いた *in vitro* 代謝実験において、血漿および尿中で検出された *in vivo* での主要な代謝物がすべて生成することが確認された。以上の結果から、 ^{123}I -IBF は肝臓で P450 により酵素的代謝を受け、尿中へ速やかに排泄されるものと推測された。また血漿中の同定代謝物の化学構造およびその脂溶性が低いことから、これら代謝物は脳内へ移行しないことが示唆された。

(核医学 36: 169-177, 1999)